

分身ロボットを活用した 障がい者就労事業のご紹介



販売元：株式会社オリィ研究所

事業主体 福岡県福祉労働部労働局就業支援課
事務局(委託) 九州地理情報株式会社

《 障害者雇用支援策の状況 》

▶令和6年4月以降

☞ 週所定労働時間が10時間以上20時間未満の重度障がい者も雇用率の算定対象になりました。

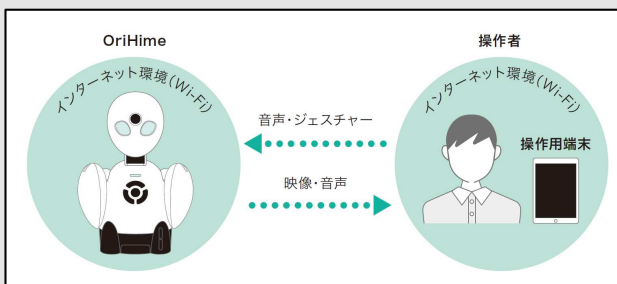
☞ 常時雇用する労働者数が40.0人以上の事業所の法定雇用率が2.3%から2.5%に引き上げられ、令和8年7月からは37.5人以上の事業所の法定雇用率が2.7%に引き上げられます。

▶令和7年4月以降

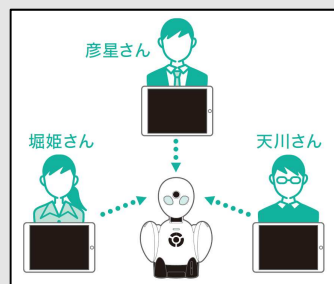
☞ 各除外率設定業種ごとに除外率がそれぞれ10ポイント引き下げられました。(これまで除外率が10%以下の業種は除外率制度の対象外となりました。)

《 分身ロボット「OriHime」の特徴 》

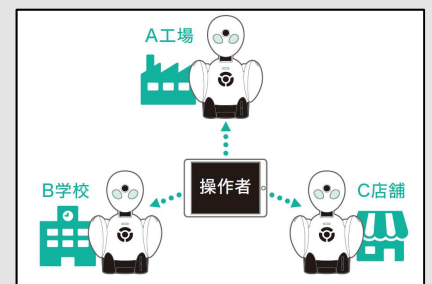
分身ロボット「OriHime」は、インターネットを利用して、人が遠隔操作できるロボットです。操作専用アプリで、簡単に操作することができます。また、音声での会話機能やアイコンのボタン操作で、分身ロボットが身振り手振りで感情表現することが可能です。



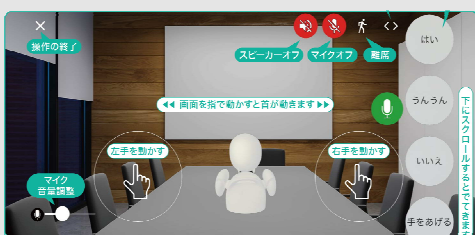
▲Wi-fi環境のある自宅から、PCやタブレットを操作して会話ができ、アイコン操作で首や腕を動かすことが可能



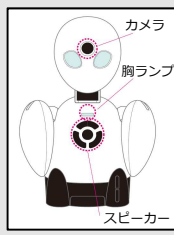
▲複数の操作者が同時にログイン可能



▲一人の操作者が複数のOriHimeで会話可能



▲操作者は、設置場所の状況を見ながら操作することが可能



▲サイズ
高：230mm
幅：170mm

◀製品要件

電源：AC電源アダプタ入力 (AC100V)
カメラ：4K
音声：内臓スピーカー及び外部出力
マイク：内臓マイク及び外部入力
通信：Wi-Fi/LAN
端末：iOS/iPad/iPhone/iPad mini/Android
：Windows, Mac
PC操作: Google Chrome/Firefox/Safari
：macOS/Microsoft Edge

《 令和6年度 実施した就労実証事業について 》

福岡県では、短時間障がい者雇用制度の範囲が広がり、重度障がい者の雇用機会が拡大すること、法定雇用の除外率が引き下げられ、障がい者雇用義務がある企業の範囲が広がることを踏まえ、外出困難な重度障がいのある人の雇用を促進するため、企業における分身ロボットを活用した就労実証を実施しました。

《 就労実証の内容 》

業種区分	鉄道運輸	レジャー観光施設
実証期間 (平日のみ)	令和6年9月～3ヵ月間	令和6年12月～3ヵ月間
実証時間	10:00～17:00	10:00～16:30
設置場所	駅構内の案内所	レストランの入口
実証内容	「利用者への声掛け」や「道案内」	「利用者への声掛け」や「施設案内」

【体 制】

- ・ 操作者2名が同時接続して分身ロボットを操作

【内 容】

- ・ 声掛け : 案内所の入退場者に挨拶
- ・ 道案内 : 事前に準備した施設へのルート
を案内
- ・ 地図操作 : 事前に準備した地図をタブレット
に表示

【体 制】

- ・ 操作者2名が同時接続して分身ロボットを操作

【内 容】

- ・ 声掛け : 通過する利用者へ挨拶
- ・ 施設案内 : 館内施設案内、営業時間、
イベント時間の案内
- ・ 案内操作 : ルートを示した案内図を表示
: 多言語対応QRコード表示

《 主な結果と分析 》

1 週10時間以上の就労の可能性

- ・操作者の週平均勤務時間は5.6時間であり、法定雇用率加算に十分に活用できる結果は得られなかった。
 - ☞操作者のうち36%は、週10時間を超える就労が局所的に確認され、個々の特性に応じた短時間雇用であれば可能性が見込まれる。

2 業務の課題

- ・分身ロボットを企業の職員の近くに配置すると、顧客は分身ロボットではなく、企業の職員に尋ねる傾向があった。
 - ☞企業の業務負担軽減を図るには、分身ロボット単独で運用できる業務の切り出しが必要。

3 操作者の負担

- ・顧客からの要望にいつでも対応できるように構えるため、疲労を感じやすい。
 - ☞定期的に声をかけ、緊張状態を開放する時間を設けるなどの工夫が必要。

4 企業に与える効果

- ・障がい者雇用に取り組む企業に対して、顧客から好感や共感を得ることができた。
 - ☞分身ロボットが企業の窓口等で働くことにより、企業イメージの向上に寄与する。

《 Q&A 》

Q: 「OriHime」を導入することで、どのようなメリットがありますか？

A: 遠隔地にいる人が物理的に移動せずに、会議やイベントに参加したり、入院・療養中の方が社会参加したりすることができます。また、外出困難な方の就労支援や教育機会の提供にも繋がります。

Q: どのような場所で「OriHime」の活用が考えられますか？

A: オフィス、学校、病院、介護施設、商業施設、自宅など様々な場所での活用が可能です。

Q: 「OriHime」は、どのようなコミュニケーションができますか？

A: 音声での会話はもちろん、カメラを通じて映像を見るほか、ジェスチャー（うなずき、首振りなど）を遠隔から行うことができます。